



寺尾の武家凧

長男誕生を祝う初凧がお茶摘みのすんだ龍山町瀬尻の大空高くブンブンと舞う。およそ150年前から伝わる武家凧の大きさは一般的には8畳だが16畳の超大物をあげるには、特に高度の技術を要するため保存会のメンバーが一丸になって取組む。

(浜松市龍山町瀬尻地内)

年頭挨拶

社団法人竜建設業協会

会長 秋山 鋭介



新年明けましておめでとうございませう。

会員皆様には、健やかに新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

年々歳月とともに建設業界を取り巻く環境は、厳しさを増して深刻化してまいりました。公共事業の受注高は、過去最盛期の30%に落ち込み、ダンピングが過当競争を助長するなど問題は深刻化するばかりです。利益率は低下の一途をたどり、まさに最悪の状態となっています。(社)静岡県建設業協会においても会員が、ここ2、3年の間に約200名の退会者があり、

11諸団体の会員においても退会者が続出している状態です。県協会本部では、各委員会でも再生を計る会議が行われており、新年度までには結論を出す努力をしている最中でありませう。戦後60有余年、鉄の団結を誇った伝統あるこの業界が、ゆらぐことのないように決意を持って再生に取り組む所存です。

今年の4月には浜松市も政令都市となり、それにともない市長選挙が実施されます。また県においても戦後最大の構造改革が施行される様であります。慣れ親しんだ環境が大きく変化する中、我々はどうすべきか、真剣に勉強しなければならぬ。この苦難の道を全員一致団結して、進もうではありませんか。



浜松市

市長 北脇保之



明けましておめでとうございませう。皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さてすでにご承知のとおり、浜松市は12市町村の合併を経て、いよいよ本年4月1日から新たに政令指定都市としてスタートすることとなりました。

平成14年7月の構想の提唱からわずか4年半という極めて短い期間で、この目標を達成できましたことに對し、市民の皆様をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

政令指定都市への移行により、県並みの権限と大きな財源を有する足腰の強い自治体へと変貌を遂げることで、市民本位のまちづくりをより一層強力に進め

ることが可能となります。また、経済活動や文化活動を活性化させ、交流人口や定住人口を拡大させることにより、地域の持続的発展、そして自立自主の理念に支えられた真の地方自治に繋がるものと考えます。

こうしたことから、浜松市は新しい都市内分権型の行政を進めてまいります。12市町村の合併の経緯も踏まえ、それぞれの地域の多様性を活かし、各地域を大切にしながら、大都市として発展させていきたいと考えます。

豊かな自然環境と活発な都市的活動が共生する、全国に類のない、新しい魅力的な都市「環境と共生するクラスター型政令指定都市」を目指し、全力を尽くして課題に取り組んでまいりますので、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

静岡県北遠農林事務所

所長 料所俊文



新年あけましておめでとうございます。

日ごろから、県の農林土木事業の推進につきまして、御支援・御協力賜り感謝申し上げます。

新年早々ではありませんが、建設業を取り巻く環境は、公共事業の予算縮小、入札・契約制度の改正等益々厳しさを増してきていると思われまます。さらに、北遠農林事務所は、今年四月に浜松市が政令市となることから、西部農林事務所と統合され西部農林事務所天竜農林局（仮称）となります。また、天竜土木事務所も浜松土木事務所と統合されるなど協会員の方々には、どうなるのかと心配されておられることと思います。この会報が発行される時点では、これからの組織の概要がある程度明らかになっていると思われるが、現時点では、新聞にも報道されま

した県庁の組織改革の影響もあり、来年度以降の当事務所の組織の内容は、まだ決まっていな

いづれにいたしましても、北遠地域は、森林や農産物の資源、優れた自然景観、豊富な歴史文化などに恵まれていますので、森林・林業や山間地農業の振興はもちろん、この地域の特徴を生かして下流の市民との交流を促進することが、この地域の活性化に不可欠であります。そのためには、道路等の基盤整備や山間地の住環境の整備を一層推進するとともに、山間地農林業の新たな担い手の定住化対策などに取り組む必要があると考えております。

四月以降、浜松市では、天竜地区に設置する天竜区役所が当地域全体の農林土木事業を担当することのようですので、当事務所としても区役所と密接に連携しながら、地域と一体となつて事業を進めてまいりる所存であります。それには、当地域の地形・地質を熟知した協会員の方々の果たす役割も非常に大きいと考えておりますので、皆様方の今後益々の御活躍を期待しております。

静岡県天竜土木事務所

所長 松山英達



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には清々しい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は政界では送金メール問題による民主党前原執行部の総退陣や安倍晋三新政権の誕生、経済界では堀江貴文ライブドア社長や村上世彰村上ファンド代表の逮捕など、スポーツ界ではワールドベースボールクラシックでの日本優勝や日本シリーズでの日本ハムの圧勝などいろいろな出来事が続きました。

また、九月には秋篠宮家にご長男誕生という誠に喜ばしい出来事もありました。

当地域においても、十月には浜松市の政令指定都市への移行が正式に決定しました。

このため、現在県で行っているすべての道路管理事務は本年

四月から浜松市に委譲され、当土木事務所は浜松土木事務所と統合されます。

当土木事務所は昭和二十七年に二俣土木事務所として開設され、昭和三四年に天竜土木事務所に改称し現在に至っています。

四月からは規模は縮小されますが、浜松土木事務所の（仮称）天竜支局として河川・砂防事業を中心に引き続き北遠地域のインフラ整備の一翼を担っていくこととなります。

近年、建設行政については多くの県民、市民から注目されており、更なる透明性の向上と、如何に地域と連携し、地域に貢献していくかが大きな課題だと考えております。

また、新浜松市の中でこの北遠地域がいかに魅力を発揮できるか、会員の方々の果たす役割は非常に重要であります。

会員の皆様方の今後益々の活躍をご期待申し上げるとともに北遠地域の益々の発展を祈念し新年のご挨拶といたします。





美しく安全な国へ

T・O

中山間地という作業条件のあまり良くない場所で建設に従事している関係上、新聞やTVで事故とか安全という言葉に出会うと敏感に反応するようになりました。

昨年はトヨタ、松下、ソニーのようなおそろいコールとは無縁と思われていた企業まで技術や品質に疑問を抱かせる事件がありましたし、社会生活上でも治安の悪化が止まりません。少子化のなかで子供にたいする虐待やいじめ、自殺も多発しています。

国家に品格があるように社会にも品質というものがあるとしたら、日本のそれは確実に悪化しているように思えます。

「安全神話」の崩壊あるいは日本社会の変質を象徴する事件として私がかつとも注目するのは、JR西日本の尼崎事故、埼玉県ふじみの市の小ニブル水死事故、姉齒耐震強度偽装事件でした。

月岡英之『奪われる日本』では郵政改革(三事業の解体・民営化)、司法改革、医療制度改革などいわゆる構造改革路線が登場してきた背景とその行き着く先が明らかにされていて、大いに考えさせられます。

私の考えでは、グローバル資本主義なる弱肉強食・市場原理主義経済はアングロサクソン特有の経済システムでありアジアアフリカやイスラム圏には決して馴染まないし、無理に取り入れれば社会の崩壊をもたらします。「民ではできないから、民にまかせるべきでない」からこそ官営

でやってきた公共性の強い事業を民間営利会社に委ねた(規制緩和した)結果が先述の私鉄とのスピード競争がもたらした尼崎事故であり、無責任な「指定管理者」によるプール水死事故であり、民間建築確認業者と姉齒による強度偽装事件に他ならないと思います。

民間私企業にとって利益を追求することは権利であるとともに義務であり、存在理由そのものです。しかるに各企業をむき出しの競争下にさらす政策を採っておきながら、利益至上主義に走るなど言う方が本来無理な話です。

アングロ・サクソン民族の社会において獣さながら弱肉強食しあうのは彼らの勝手ですが、日本はもつと人間的な社会であるし、あるべきだと思います。

「構造改革・規制緩和」が行き着くところ、人命や安全が軽視され利益のみが重視される社会の到来です。社会全体がそうなってしまうのは個々の工事現場の安全など望むべくもありません。こゝとは社会の構造的な問題だからです。日本は美しいだけでなく人に優しい安全な国であって欲しいと思います。



かんとくさん



北遠農林事務所
石橋 宣昭

私が北遠農林事務所水窪支所に赴任して2年目となります。前の職場では、森林整備課で間伐や松くい虫防除等の補助事業、森づくり等のソフト事業を担当しておりました。

昨年から工事を担当して、驚いたことは、現場には土木・建設機械ばかりでなく、想像以上に人の手が加わっているということです。工事現場に足を運ぶ度に主任技術者や各作業主任者をはじめとした全作業員の方々の経験や技術力で現場が仕上がっていくということ、日々実感しています。

事業担当としてはまだ未熟者ですが、現場をサポートできるように円滑な事業の執行を心掛けたいと思います。

年末から年度末にかけて寒くなると同時に工事の工期も近づき、忙しくなりますが、事故等のないよう安全・健康面には十分気を付け、作業にあたっていたきたいと思います。



私の安全パトロール日誌



浜松市龍山町地内

乗松建設(株)
乗松 敬貢

私が主任安全指導員になり、早15年を過ぎようとしています。その頃に比べると、協会員の安全管理は見違えるほどに良くなってきたと思います。しかし、毎月のパトロールで感じるのが、足場及び昇降路の不備です。又、北遠地域での工事は急峻なうえ、転石が多く施工困難な箇所である為、安全に気を配り地山の毎日のチェック及び、ネットの設置等をするようにしなければなりません。それから、設計で安全上の不備が見られる時には、監督員と協議を書面でもって行う事。それでも駄目な場合は、建災防を通じ労基署、県に報告する機会があるので、協会へ連絡して下さい。

平成19年の四月には北遠地域も政令市となります。今後、仕事ができるように発注されるか不透明ですが、現在の仕事は確実に安全に施行しましょう。

建設ギャラリー

平成18年度治山(予防)塩沢工事

1. 施工期間 平成18年7月20日～平成18年12月20日
2. 発注者 静岡県北遠農林事務所
3. 施工者 吉川建設株式会社
4. 工事概要

岩接着工	
亀裂清掃	424.8㎡
目地工:	12,742ℓ
注入工:	12,742ℓ
足場工:	単管足場850掛㎡
仮設工:	モルレル架設 L=170m
	盤台設置撤去1式



本工事は落石や岩盤崩落により災害が発生する危険がある箇所を、予防的に法面上の転石や落盤しそうな岩盤を特殊なモルタルを用いて接着固定する工法です。岩盤崩落、落石による災害の危険が予想されたので、危険な浮石は優先的に接着固定し、固まったことを確認後その下での作業をする手順をたてて施工しました。

危険な要因が多い工事で気を使いましたが、現場が無事完成したことは非常に良かったとおもいます。

リスクマネジメント

最近のキーワード

現在、企業経営において盛んに言われている「リスクマネジメント」。企業や特定の事業を行う場合に、その企業や事業の本来の目的である利潤追求を阻害し、むしろ損失に変えてしまう恐れのあるリスクを分析・発見・評価して、どう管理・制御するのか、リスクは不確実性そのものであることから、事前に防ぐことができなかったリスクが現実化する可能性に備えて、財政面などどのように対処するかということがある。

建設業界を取り巻くリスクは、企業の存続をも脅やかすほど大きなものがある。現場での不測の事故は、いつ起こるとも知りません。一つの事故により会社が消滅するほどの損失が発生することもあり得ます。そのような状況が起こりうることを認識して、対処していくことです。

My Family

春野建設事業協同組合 横道 克巳

私の家族は妻と息子（小学1年生）の3人です。
妻とは結婚して早13年、結婚後しばらくは夫婦2人で静かな生活をしていましたが、20世紀最後の年の2月に我が家にも3人目の家族がやってきました。
いざ自分が父親となりその当事者となつてみると知らないことだらけで毎日あわただしくしていたことを思い出します。
そんな息子も今年小学校に入学しました。
子供にとってはものすごい環境の変化だった様で、今までは親と歩いて保育園に通っていたのが、勉強とバスに乗って通学になったり、勉強（入学前には何もやらせていなかった）というものにちよつと戸惑いを感じていた様ですが、半年ちよつと経った今では友達と一緒にバスに乗って帰って来たとか、家に帰ると毎日常



語の本読みや算数の計算カードをしている声が聞こえると、子供の順応力や成長には感心しました。頼もしく思います。
子供が生まれてからまた6年ですが、いつ親を追い越していつてくれるのか、妻と楽しみにしながらこれからも生活していきたいと思つています。



遠州中央
農業協同組合
春野支店

伊藤 みずほさん

農協に入組し春野支店に勤めて2年目になりました。
担当は出納係です。間違えが許されないで早く仕事を覚えて、余裕を持った接客ができるように頑張つていきます。
また、日頃から、お客様がご来店され易いように、上司や同僚の方と良い雰囲気の良い支店づくりに努め、笑顔で明るい挨拶をするよう心掛けています。
春野町の出身なので、休日は学校時代からの友達とカラオケを楽しんだり、インターネットで探した話題のお店を、ドライブを兼ねて訪ねています。

姫様“珍”道中

～北遠の今後を探る～

平成17年9月の法改正で一般の会社も農業参加が可能になりました。

この法改正に先んじて長野県大鹿村では構造改革特区制度により、建設業等が農業に参加して村づくりを展開しています。わが北遠地域の今後を探る一助として、中山間地域の先進事例を視察研修しました。

現在、村の中心的産業である建設業の低迷という状況

仕事がない！人員削減！解雇するわけにもいかない。大鹿村の建設会社は地域の雇用にも責任をもっているのです。
従来の手法と差をつけたという思いから「農業と建設業の抱える大きな課題をひとつに結びつける」ことで活路を見出そうとすべてが始められました。

動き出した役場からの打診に、建設業協会は「農業は採算が取れる産業ではないので、全く眼中にない話」から、繰り返し返される説得に「努力します」という形で乗ることになった。

遊休農地を所有者がいったん村に貸し、それを村が建設業者に貸し付ける方法を取る農業参加は3年目を迎えた現在でも収支のバランスは考えられない状況ですが、5年後・10年後にはと努力しています。

観光客に提供するトウモロコシ直売や高冷地を活かした山菜やブルーベリーの栽培など、新規参加者ならではの取り組みで

す。
さらに、観光産業と連携したアルペン酪農などの特色ある農業展開の効果があらわれきています。

実際に農業に参加した（株）吉野建設の吉野社長は、
「今のところ目標の6割ほどです。でも収支より自分たちの力で地場産業を立ち上げたという思いが強くなっています。生産物をつくることで、従業員たちのモチベーションがあがっていくのが分かった。意識改革に繋がったわけです。」

近い将来、観光公園をつくり、やぎを放牧してチーズをつくる。農家レストランもいいですね。」と語り。この地を訪れる人が増えれば村が元気になる。そうならば建設の仕事も自然と増えてくると見ている。

特区は、地域の活性化が目的。今の取組みの答えは先になりますが、特区に取組まれている建設業者の皆さんのお話を聞いていると村の将来に光があるように感じました。村の将来を憂えるだけでなく、「こうしていきいたい！」という夢を描いて取組んでいるからかもしれません。



整備されたブルーベリー農園